

幼児教育・家庭教育

<幼児教育>

- 福井県では待機児童がゼロであり、保育所への就園率が高い。

	国公立		私立		計	
	園数	5歳児数	園数	5歳児数	園数	5歳児数
保育所	135	2,261	136	2,958	271	5,219
幼稚園	75	972	33	939	108	1,911
計	210	3,233	169	3,897	379	7,130

保育所：幼稚園 = 7：3 （幼稚園比率 全国54.2%、福井県28.3%、都道府県別42位）

- 平成23年10月に県の幼児教育に対する支援策を示す「福井県幼児教育支援プログラム」を作成、11月に「幼児教育支援センター」を開設

〔活動内容〕

① 保育士と幼稚園教諭の共同研修等

- ・ 保育の基本を学ぶ講座(1,350名参加)、小学校1年生の教科書を学ぶ講座(790名参加)
- ・ 幼児教育アドバイザー2名が幼稚園・保育園を巡回訪問（累計277回・全体の約7割）
- ・ 保育士を対象としたグッドトイや絵本を利用する講座（約630名参加）

② 保幼小接続カリキュラム（平成26年7月試行版作成）

- ・ 接続講座に全体の約5割（約1,600名）参加、モデル校の中間報告会（約400名参加）
- ・ 小学校教諭の1日保育体験（65名参加）

③ 保護者の一日保育体験や家庭教育アドバイザーの活動

- ・ 家庭教育アドバイザー2名が3歳児健診会場等に出向きグッドトイや絵本による親子のふれあいを促進（出前講座：約4,400名参加）
- ・ 保護者が保育所・幼稚園で一日保育体験（78園で保護者約4,100名参加）
- ・ 平成26年8月に「家庭教育相談・応援サイト」を開設して保護者の悩みにアドバイス

④ 由紀さおりさんによる「童謡で伝える会」や知育玩具の活動

- ・ 「童謡で伝える会」（園児・保護者約6,000名参加）、加古里子氏の絵本を園に普及
- ・ 県内8か所の子育て支援センターに地域グッドトイコーナーを設置

- 保育所・幼稚園と小学校の垣根を超えた共通のカリキュラムを整理したことで接続の柱が確立

- 今後、幼児教育アドバイザーの訪問先の拡大（小学校や就学前健診）、

全県下での保幼小接続カリキュラムの実践 などを予定

<家庭教育>

○ 保護者の子育てや進学のお悩みに対応する「家庭教育相談・応援サイト」をインターネット上に開設（平成26年8月）

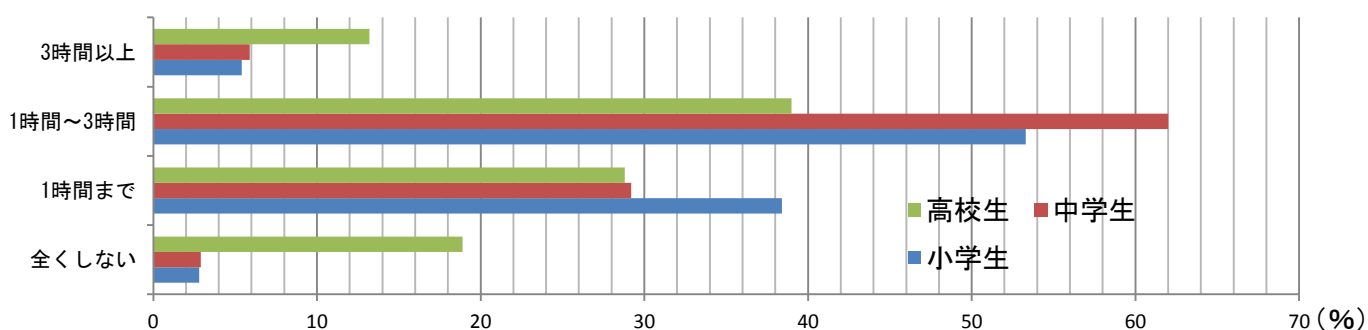
- ・ 就学前の子どもを持つ保護者に家庭における生活リズムの大切さを説明
- ・ こども園の新採用職員に対し、子どもの考えを引き出す言葉かけを助言

アクセス数 (8月～11月)	乳幼児	小学生	中学生	高校生	計
件数	1,030	802	654	446	2,932
比率(%)	35.1	27.4	22.3	15.2	100

○ 家庭教育を支援する人材向けに子育てステップアップ研修講座を開始（平成22年度～）

- ・ 平成26年度は5回開催153名参加（ほめ方・叱り方、子どもがいじめられたときの対処法など）

○ 平日の勉強時間



小・中学校教育

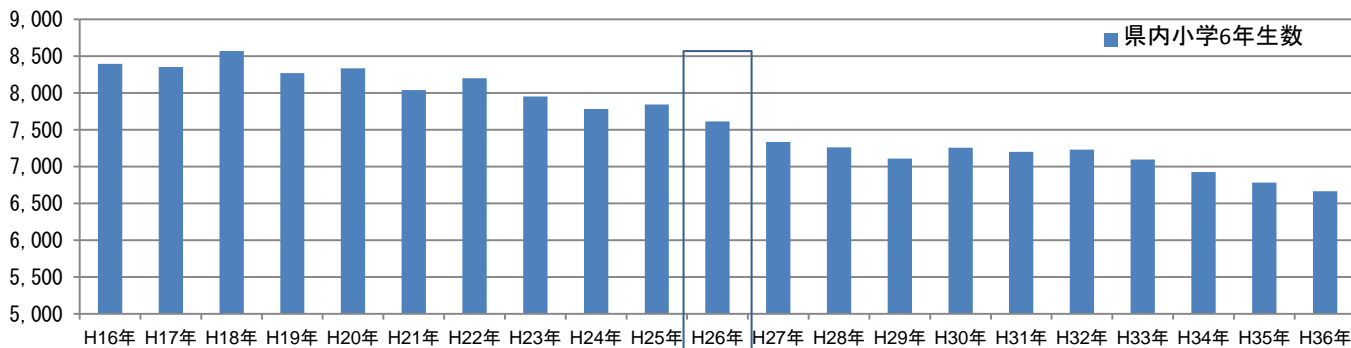
<学校数・学級数>

○ 福井県内の小学6年生は10年間で9.3%減少（H16：8,395人 → H26：7,616人）

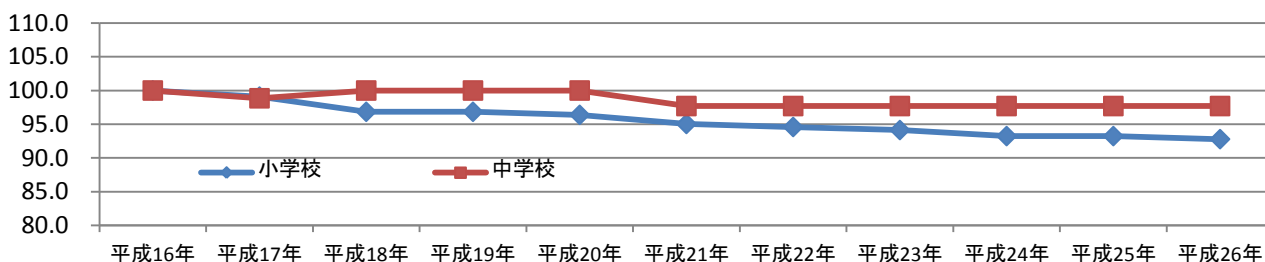
さらに10年後、小学6年生7,616人（H26）が約6,600人（H36）に減少見込

小学生総数は約5万1千人（H16）→ 約4万3千人（H26）

中学生総数は約2万6千人（H16）→ 約2万3千人（H26）



○ 小学校数は222校（H16）から206校（H26）、中学校数は87校（H16）から85校（H26）に減少



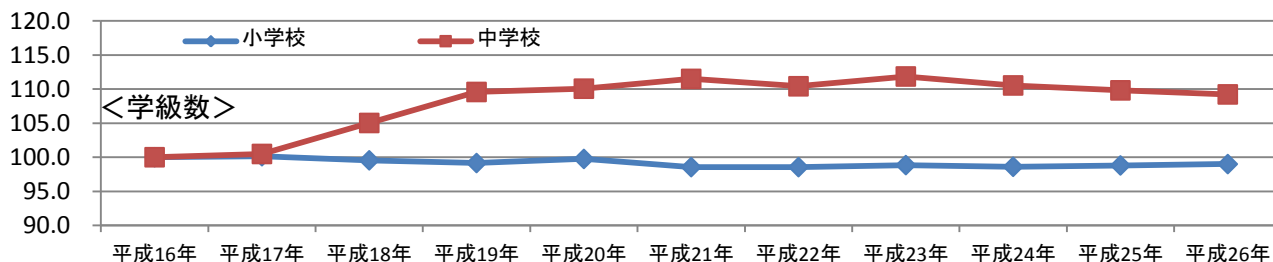
○ 平成16年度から県独自の少人数教育を実施

公立小学校学級数は1,995学級（H15）→ 1,976学級（H26）

・ 36人以上の学級の割合 15.9%（H15）→ 1.9%（H26）

公立中学生学級数は828学級（H15）→ 913学級（H26）

・ 33人以上の学級の割合 72.1%（H15）→ 0%（H26）（基準に沿って全学校に教員を配置済）



学年	元気ふくいっ子笑顔プラン				新元気ふくいっ子笑顔プラン				H24	H25	H26
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23			
小1	40						40	35			35
小2	40							40	35		35
小3	40									40	35
小4	40										40
小5	40			40	36						36
小6	39	38	37	36							36
中1	37	35	32	30							30
中2	39	38	37	36	35	34	33	32			32
中3	39	38	37	36	35	34	33	32			32

<全国学力・学習状況調査①>

○ 小中学校とも調査開始から7年連続で全国上位の成績

<小学校>合計正答率上位5県

平成26年度	合計正答率(%)
秋田県	296.0
福井県	283.6
石川県	282.9
青森県	279.2
富山県	276.6

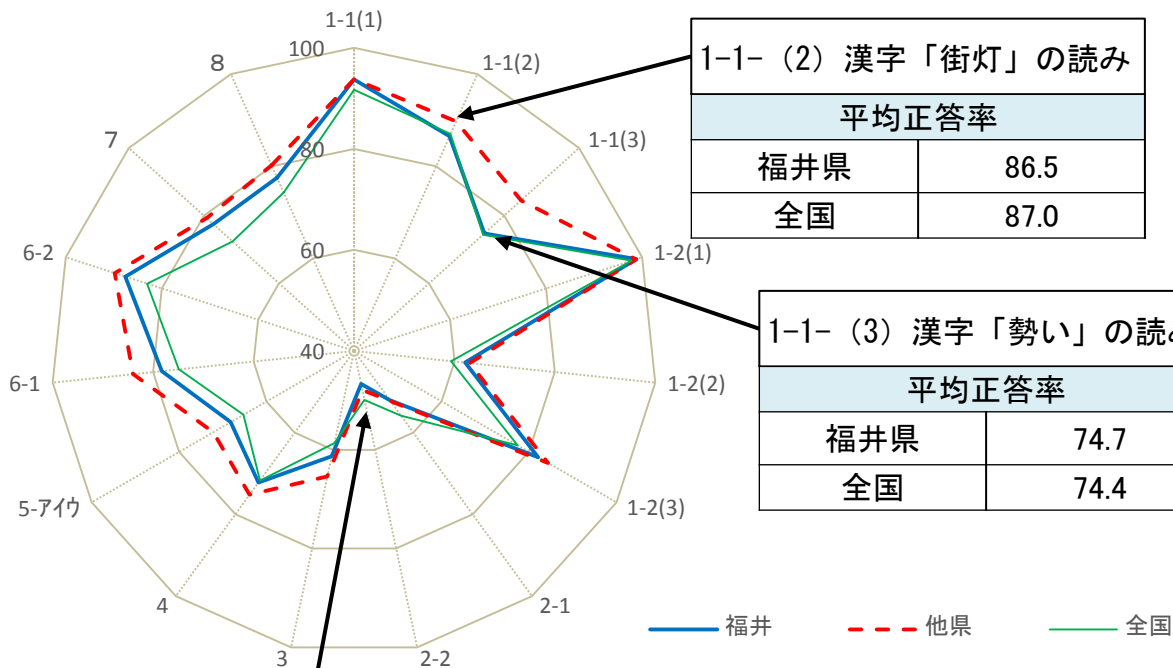
<中学校>合計正答率上位5県

平成26年度	合計正答率(%)
福井県	280.1
秋田県	278.7
富山県	272.1
石川県	269.9
静岡県	267.9

小学校正答率(%)		
	福井県	全国
国語A・B	136.4	128.4
算数A・B	147.2	136.3

中学校正答率(%)		
	福井県	全国
国語A・B	138.9	130.4
数学A・B	141.2	127.2

<設問ごとの傾向> 小学校国語Aでは故事成語や漢字の読みに課題



2-1 故事成語「五十歩百歩」の使い方	
平均正答率	
福井県	52.1
全国	55.8

<全国学力・学習状況調査②>

○ 授業内容をわかる度合いや学校の宿題をしている割合は高い。

<小学校>

国語の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
37.7	3位	33.4

算数の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
49.7	3位	44.7

家で学校の宿題をしている		
福井県		全国
87.1	22位	86.0

家で学校の授業の予習をしている		
福井県		全国
11.7	46位	16.1

算数の授業で簡単に解く方法を考える		
福井県		全国
43.3	42位	45.7

<中学校>

国語の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
25.6	3位	22.6

数学の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
34.3	13位	33.0

家で学校の宿題をしている		
福井県		全国
75.0	4位	63.7

家で学校の授業の予習をしている		
福井県		全国
8.2	38位	11.0

数学の授業で簡単に解く方法を考える		
福井県		全国
29.0	45位	33.6

<放課後・土曜日の活動>

- 放課後子ども教室と放課後児童クラブを一本化した「放課後子どもクラブ」を設置
放課後子ども教室：179校区155か所、放課後児童クラブ：179校区225か所を一体運用
全小学校区で6年生まで受け入れ（未実施校区：H19 18校区 → H22：0校区）

- ・宿題や校庭での球技、室内での読書やかるた遊びなど
- ・クラブによっては習字、料理教室や英会話教室を実施

〔支援内容〕

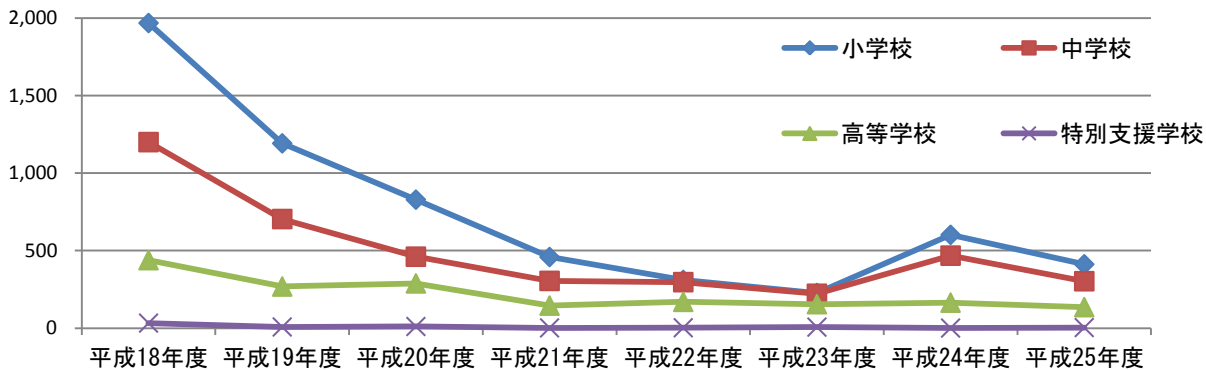
- ・9人以下の小規模クラブの運営費を支援（H8～）
- ・小学4年生以上、留守家庭以外の受け入れに追加支援（7,500円/人：H22～）
- ・小学6年生まで受け入れる児童クラブ整備の市町負担を軽減（1/3→1/6：H24～）

- 若狭町上中中学校と校区内5小学校を「土曜授業推進地域」に指定（平成26年度～）
 - ・月1回程度「ふるさと教育」「キャリア教育」「学力・体力向上」のテーマで授業
 - ・地元画家とのふるさと写生、親子奉仕作業後の道徳授業、老人会との交流（熊川音頭の講習）
福井県里山里海湖研究所員による環境授業など地域の外部人材が50回参加予定
- 土曜日の課外活動（希望者を対象とした学習機会の提供）は5市町、6中学校、2小学校で実施
 - ・テスト対策等の学習会、科学実験や手芸などのファミリースクール
- 土曜学習（教育委員会や社会教育団体が主体）は15市町で実施
 - ・大手電機機器メーカーの技術者によるロボット作り講座、親子カヌー体験などを実施
 - ・町の自然、食、文化、歴史等を体験する講座を季節ごとに実施

いじめ・不登校対策

<いじめ対策>

- いじめの件数は平成18年度の3,640件から平成25年度は855件に減少
平成25年度のいじめ解消率は95.7%（H24：94.3%、H23：71.4%）



- 福井県いじめ防止基本方針（平成26年3月策定）、いじめ問題対策連絡協議会（平成26年4月設置）

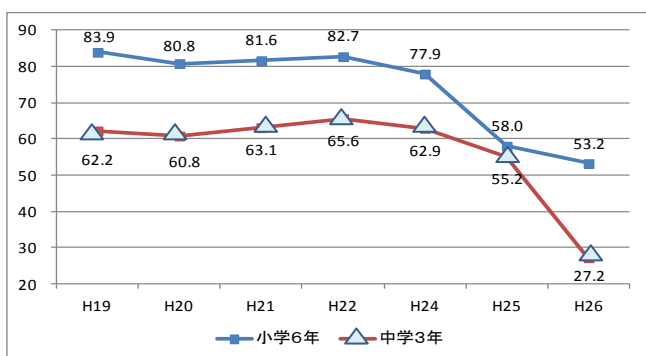
〔内容〕

- 児童生徒の毎日のいじめ自己チェックや定期的ないじめアンケート調査を実施
 - ・平成24年9月から教職員による未然防止のためのいじめ対策委員会を全学校に設置
 - いじめ発生後は複数の教員によるサポート班による早期情報共有と対応を徹底
 - ・ネットいじめの割合が増加（H24：5.0% → H25：9.5%（全国平均：4.7%））

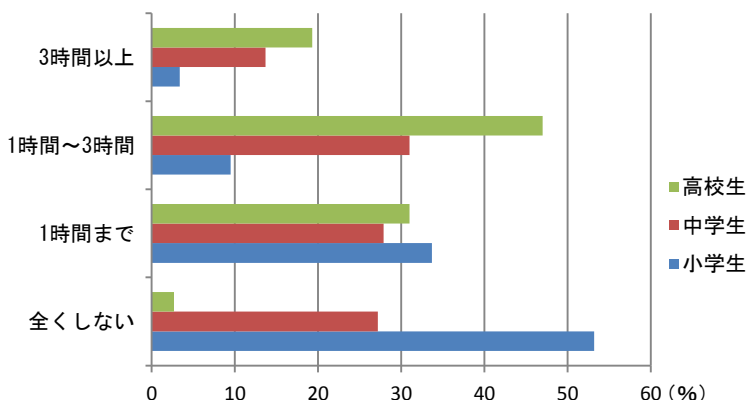
- 新中学1年生や保護者向けの携帯・スマートフォン対策

- ・新中学1年生と保護者にパンフレット「ケータイの恐さ知っていますか？」を配布
- ・中学・高校の新1年生に利用ガイド「インターネット通信の使い方に気をつけて」を配布
- ・生活指導・情報教育担当教員を対象にLineやGree等の担当者による改善研修を実施

- 携帯電話等を持っていない割合



- 平日のインターネット使用時間

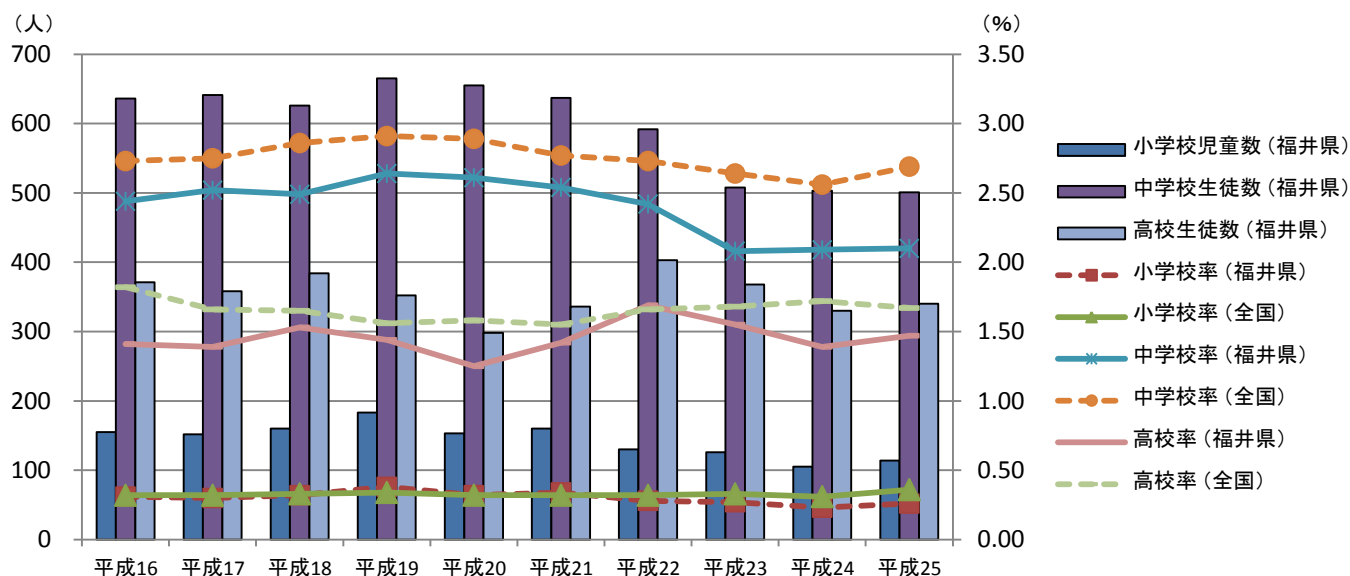


<不登校対策>

○ 不登校児童生徒の割合は小学校・中学校とも減少、高校はほぼ横ばい

小学校 0.31% (H16) → 0.26% (H25)、中学校 2.44% (H16) → 2.10% (H25)

高校 1.41% (H16) → 1.47% (H25)



○ 福井県不登校対策指針（平成22年8月）に基づき、未然防止、初期対応、自立支援を実施

〔対応〕

- 未然防止（少人数学級の実施、幼保小や小中間での体験入学や情報共有）
- 初期対応（欠席が5日に達した時点で状況シートを作成。複数名の教員で対応）
- 自立支援（スクールカウンセラーを小学校45校、全中学校、定時制高校7校に配置、スクールソーシャルワーカーを全市町と定時制高校7校に配置
大学生を学校や家庭に派遣（現在67名登録）

〔解消事例〕

- スクールカウンセラーとの相談の中で将来の就職希望を明言。関連する分野でのボランティア活動を始めて登校日数も向上
- 中学校で不登校を経験した生徒が少人数で教育を行う定時制高校に入学。同様の経験を持つ生徒の中で登校日数・意欲が向上

小中連携・中高連携

<小中連携>

- 小学校教員のうち中学校免許所有者は88.3%（全国平均62.0%）
中学校教員のうち小学校免許所有者は89.7%（全国平均25.9%）
小学校教員の50.7%が中学校勤務を経験、中学校教員の46.0%が小学校勤務を経験
- 小学校の公開授業に校区内の中学校教員が参加（H25：約300回）
中学校の公開授業に校区内の小学校の教員が参加（H25：約150回）

※ 福井市内中学校と校区内3小学校で全小中教員による「小中連携合同研修会」を開催

- ・年4回の合同研修で算数・数学の一貫した指導案・独自教材を作成
- ・ノートの取り方、発表方法や生活習慣の共有・共通化

<中高連携>

- 高校教員の22.9%が小中学校勤務を経験
- 高校の授業研究会に中学校教員が参加（H25：延べ126名）
中学校の授業研究会に高校の教員が参加（H25：延べ214名）
- 授業事例集「中高授業接続ガイド」（平成25年3月）により系統立った授業方法を共有
〔学年・科目ごとに必ず実施することを明記〕
 - ・中学3年数学：二次関数では、高校と同様に方眼紙を用いず簡易グラフを書くことを習慣付け。
 - ・中学3年英語：高校での論理的に書く活動につながるよう構成メモや相互評価による英文作成

<中高一貫教育>

- 県立高校3校を中高連携校に指定して中学校に連携クラスを設置（H17～）
 - ① 丹生高校
 - ・朝日中学校と30名程度の連携クラスを設置
 - ・来年度から連携中学校を3校（宮崎中、越前中、織田中）増やし、4校に拡大
 - ② 美方高校
 - ・三方中学校、美浜中学校と連携クラス（学年全体の3割）を設置
 - ・来年度から連携中学校を1校（上中中）増やし、3校に拡大
 - ③ 金津高校
 - ・芦原中学校、金津中学校と45名程度の連携クラスを設置
 - ・中高の連携生徒に対して国際交流事業（中国、アメリカ）を実施

※ 3校の連携クラス国公立大学進学率は39%（連携クラス以外は26%）

- 平成27年4月から県内初の併設型中高一貫教育校として高志中・高校が開校予定
（高志中学校：1学年定員90名）

高校教育

<理解度（わかる度）調査>

○ 平成23年度（試行）から県独自の高校生授業理解度調査を実施

平成26年度：全県立高校の生徒 16,695名調査

全科目平均わかる度76.0%（H25：75.3%）

〔教科別〕国語83.9%（H25:81.7%） 数学71.6%（H25:69.5%） 英語73.9%（H25:70.8%）

地歴公民76.0%（H25:74.1%） 理科70.0%（H25:65.8%）

	国語	数学	英語	地歴公民	理科
教員の指示や説明が分かりやすい	87.7%	81.9%	82.1%	83.6%	79.2%
教員の話し方や声の大きさが適切	93.1%	91.4%	90.8%	92.4%	91.8%
授業の難易度が適切	62.8%	40.6%	49.1%	61.8%	50.8%
板書や配布資料が適切	90.7%	92.1%	89.3%	86.2%	88.6%

〔数学の授業改善例〕

○ 予習的課題を前提とした授業

- ・ 家庭で予習的課題を考え、授業のはじめに教員に質問
- ・ 授業前半で重要ポイントのみ指導
- ・ 授業後半で問題演習

○ タブレット端末に入っている動画教材を繰り返し視聴

- ・ わかる生徒はどんどん先に進み、わからない生徒は理解するまで反復学習

○ 関数や図形では板書中心ではなく、パワーポイントによる視覚的授業

〔英語の授業改善例〕

○ 予習を前提とした討論・対話型の授業

- ・ 家庭で音読や要約などの課題を事前に予習
- ・ 授業では予習した内容を踏まえて討論などを実施

○ スカイプを用いた海外姉妹校との英会話の実践

<職業教育>

○ 奥越明成高校に独自科目「観光」を設定

- ・ふるさとの振興と活性化に寄与する態度と能力を養うと同時に、魅力を伝えるコミュニケーション能力などの社会人「基礎力」を養成
- ・ビジネス情報科2年生が週2時間の授業。「観光学基礎」(JTB)を準教科書として使用

〔授業内容〕

- ・観光ポスター制作やPR、情報発信方法の学習、外部講師の講義(地域人材の基礎)、市役所観光担当職員との座談会での意見発表 など

○ 坂井高校に最新の職業教育機器を整備

- ・レーザ加工機やマルチアライメントリフト、風力と太陽光を組み合わせた発電装置など

○ 職業関連国家資格等の取得者数 (H22 : 2,526人 → H25 : 2,637人)

- ・ジュニアマイスターゴールド84名、シルバー89名

○ 企業や研究機関等の高度技術者による直接指導

- ・9高校で133回実施予定 (H26)

〔事例〕

- ・自動車メーカー担当者を招いてハイブリッドカーの整備授業
- ・工務店技術者を招いての木材加工の授業
- ・大学研究者を招いての燃料電池研究に対する助言・指導

○ 企業経営者や技術開発者と新商品の共同企画販売を実践

- ・12高校でそれぞれテーマを設定

〔実践例〕

- ・空き店舗を利用した中心市街地の活性化
市内の店舗や観光情報の収集・発信、アンテナショップへの運営協力・提案
- ・伝統的な食品生産技術の継承及び創作料理についての研究・企画
地元の特産品(葛、こんにゃく)の伝統的な製造技術の習得
- ・宇宙食(サバ缶)の開発と宇宙航空研究開発機構(JAXA)による講演

○ 企業の生産現場での長期(約10日間)の実習

- ・農業系・工業系高校8校の生徒64名が18社で実習 (H24~)

〔派遣企業例〕

- ・上江ファーム、福井鐵工(株)、アイシン・エイ・ダブリュ工業(株)
北陸電力(株)、パナソニック(株)機構部品ビジネスユニット など

<小学校>

- 全ての小学校4年生が独自DVD教材「グローバル・スタディーズ」でDVDに合わせて歌う活動を月1回、年間10回実施
 - ・親しみやすいキャラクターを使ってアメリカの学校生活やイギリスのスポーツ、タンザニアの学校などを月ごとに紹介
- 小学校5年生・6年生は英語の表現や音声に慣れるため週1時間の外国語活動を実施

<中学校>

- NHK教材を活用して多様な表現を学習
 - 中学3年生は発展的な内容を取り入れたワークシートで実習
 - ※ 英検3級以上に合格した中学生数 (H23 : 1,348人 → H25 : 1,409人)

<高校>

- 全ての高校1年生が福井のことを取り上げた「福-イングリッシュ」を月1回以上活用
 - ・予習（家庭でのDVD視聴）を前提に授業は対話が中心。授業後もテキストとDVDで復習
- [教材内容]

 - ・越前ガニやめがね、そば、若狭塗、恐竜、東尋坊などを英語で紹介して英語だけでなく福井についても理解を深める内容
- 職業系高校で英語を話す基礎的な力を伸ばす例文を利用した独自教材を作成
 - ・英語授業の冒頭で5～10分間の活用を予定
 - 高校生100名を対象に2週間の米国研修（ホームステイ、交流活動等）を実施
 - ・参加した生徒のTOEICスコアは平均で54.4点上昇
 - ※ 英検準2級以上に合格した高校生数 (H23 : 901人 → H25 : 1,055人)

- 勝山では高校1校、中学校1校、小学校3校が英語教育強化地域拠点に指定
 - ・小学校3～5年生（外国語活動：週1時間）、6年生（英語科：週2時間）、専科教員配置など
 - ・中学校では生徒同士が同意、あいづちなどを用いて会話を続ける授業を導入
 - ・高校ではペアやグループでの会話を中心に英語の表現力を付ける授業を導入
 - ※ 中学校・高校で伸ばす英語力を体系的に整理して授業に活用

<教員>

- ALTは82人（生徒1人当たりの人数は全国1位）
- TOEIC730点以上の中学校教員は42.8%（全国平均：27.8%） 高校教員は72.4%（全国平均：52.7%）
 - ・米国 ラトガース大に1か月程度の海外研修派遣（H24～：30名派遣）
 - ・全ての中学校教員を対象とした英語研修（約200名参加）
 - ・小学4年生の担任を対象とした研修（約450名参加） ワークショップ（約240名参加）

ふるさと教育

- 高校生が福井の将来や自分自身の生き方について考える機会をつくるため、福井県ゆかりの企業経営者など11名をふるさと教員として県内高校で授業（これまで21回行い約980名参加）

- ・教員は小林栄三氏（伊藤忠商事会長）、野路國夫氏（コマツ会長）、小松長生氏（指揮者）、田畑直樹氏（葛西臨海水族園園長）など

〔授業内容〕

- 内田幸雄氏（JXホールディングス(株)取締役副社長執行役員）
 - ・「次世代のエネルギーについて」
 - ・第1回は講話と質疑応答、第2・3回は生徒から班別に提案発表

〔授業内容〕

- 田畑直樹氏（葛西臨海水族園園長）
 - ・「野生動物の保全と動物園の役割について」
 - ・第1回は動物園の歴史と役割について講話。第2回は生徒から動物園で働く、経営する視点で意見発表を予定

- 小学校では国語の中で古典を学ぶ時間を16時間増加（小学校3～6年生通算）

- ・H25は小学校3～6年生で50時間。H26は各学年で4時間百人一首を学ぶ時間を増加させ66時間

- 中学校では論語や漢詩などを学ぶ時間を4時間増加（中学校）

- ・H25は中学校1～3年生で80時間。H26は1・3年生1時間、2年生2時間増加させ84時間

- 地域への誇りや自信を深める希望学を活用した中学生向け講座を開催

（これまで7回行い約600名参加）

〔講座例〕

- アジアに向かう「福井の恐竜」
 - ・勝山・タイ・中国の三者間の国際的な学術文化交流により共有される「アジア恐竜時代」の物語
- 港がはなつ輝きと希望
 - ・三国港の水深維持を図る「三国港突堤」と、和洋折衷の意匠を凝らした「みくに龍翔小学校」の建設プロセスなど港町の物語

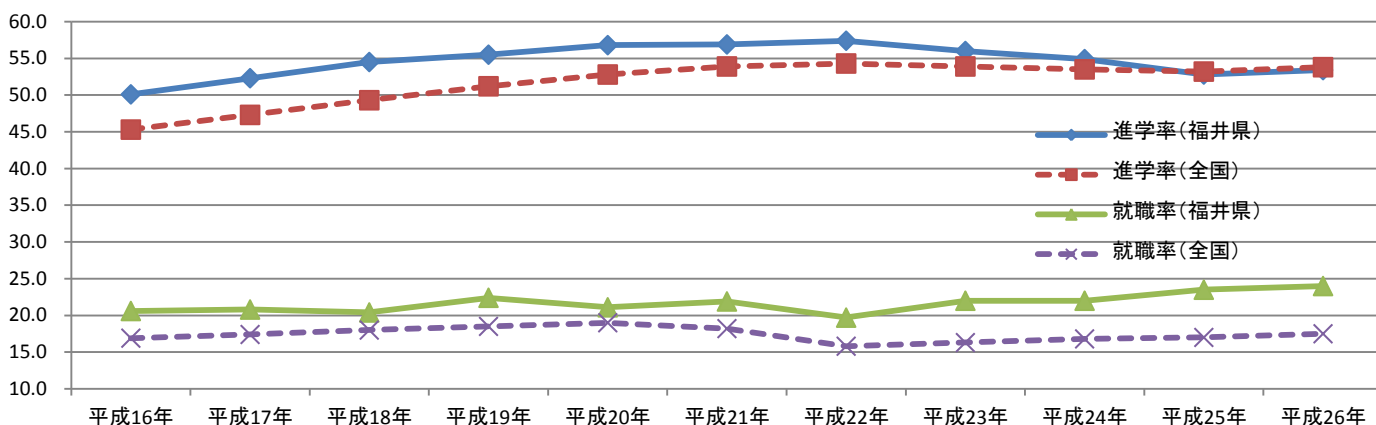
- 希望学調査の成果を盛り込んだ副教材「心のノート」を作成（H27～活用予定）

- ・7つの県内地域の物語「越前がにをめぐる人々」、「伝統をつなぐ ～池田町水海の田楽能舞～」など

進路

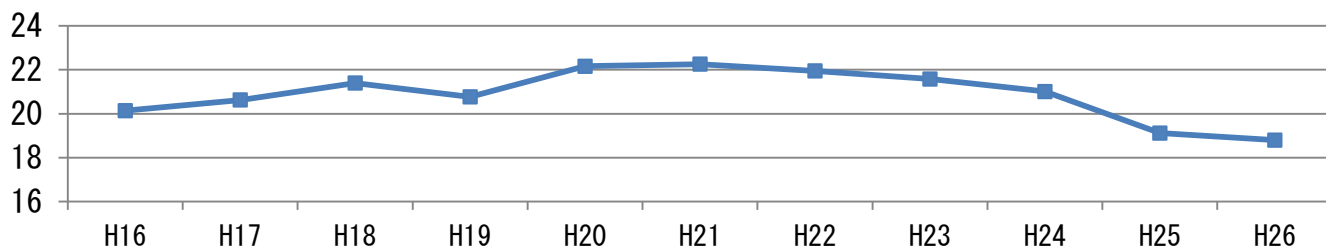
<進学・就職>

- 大学等進学率は平成22年3月の57.4%から平成26年3月は53.4%に低下
就職率は平成22年3月の19.7%から平成26年3月は24.0%に上昇



<進学指導>

- 高校卒業者のうち国公立大学への進学率は18.8% (H21 : 22.3%)



- 大学等進学者のうち県外進学の割合は62.2% (H16 : 65.6%)

〔主な進学指導〕

- 国公立大学個別試験対策講座 (約900名参加)
 - ・土曜チャレンジセミナー (10～12月) 大学志望 1、2年生対象 各3回
 - ・冬期セミナー (12月) 大学志望 3年生対象
 - ・春期セミナー (3月に1泊2日で実施) 大学志望 2年生対象
- センター試験会場での模擬試験実施 (約3,000名参加)

<就職指導>

- 就職希望者の内定率は99.8%
平成26年3月卒業者のうち1,796名が就職 (県内 : 1,595名、県外 : 201名)

<全国上位3県>

平成26年3月	内定率	平成25年3月	内定率	平成24年3月	内定率
福井県	99.8	福井県	99.7	石川県	99.7
石川県	99.8	富山県	99.6	富山県	99.6
富山県	99.7	石川県	99.3	福井県	99.5

- 産業人材コーディネーター13名が企業訪問等によるニーズ把握と求人開拓等を実施
- 就職先分野のうち、割合が高いのは製造業 (733名、40.8%)、卸売・小売業 (206名、11.5%)、建設業 (196名、10.9%)、医療・福祉 (140名、7.8%)、宿泊・飲食サービス (102名、5.7%) の順

高大連携

○ 福井県立大学海洋生物資源学部と若狭高校との連携（H25～）

海洋科学科

- ・ 大学教授等による授業3回（若狭湾内での引き網・生物調査、えびの調理法による味覚変化など）
大学見学を2回実施

理数科

- ・ 「探究科学」に対する指導・助言のほか、県立大学研究室を生徒が訪問
食品工学研究室（塩ウニの健康性機能、高血圧ラットの研究など）
海洋環境工学研究室（津波シミュレーション、船の減揺研究など）

共同研究

- ・ 小浜湾の湧水調査共同研究、間伐材増殖礁調査

学生の交流

- ・ 学校祭等での相互展示 など

○ 福井県立大学と坂井農業高校の共同研究

- ・ 早生小麦「ふくこむぎ」の育成と栽培特性（H25. 2）、小麦の特性調査（H26. 6）
- ・ 絶滅危惧種「アゼオトギリ」の増殖（H26. 7）

○ 福井大学とスーパーサイエンスハイスクール等を中心に課題研究・出前授業

○ 福井大学と羽水高校で授業力向上協定締結（H26. 5）

- ・ 大学教授等を学校に派遣して教員に教科指導・生徒とのコミュニケーションの専門的な助言
- ・ 大学教授・大学院生と高校教員によるチーム指導も実施

○ 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センターと若狭高校海洋科学科が海洋教育促進拠点として連携協定を締結（H26. 6）

- ・ 海洋アライアンス海洋教育促進センター講師が若狭高校を訪問して授業実施（4回）
（課題研究の進め方や地域の調査手法など）

○ 京都大学と福井県教育委員会が連携協定を締結（H26. 8）

○ 10月から始まった京都大学グローバルサイエンスキャンパスに県内高校生8名が参加

- ・ 京都大学教授による系統別講義
- ・ 分野別実習・実験（8人程度のグループが研究室で実施）

特別支援教育

- 教員の特別支援学校免許保有率は特支学級65.9%(全国:30.5%) 特支学校75.3%(全国:71.5%)
 - ・平成25年度採用試験から一括採用を特別支援学校枠に変更
 - ・年間4講座の特別支援学校免許の認定講習を実施 (H26:260名参加)
 - ・特別支援教育センターの指導主事による学校訪問研修など教員研修
平成25年度は91回、1,923人参加。その他コーディネーター研修等に2,000名参加

- 特別支援学級数は284学級 (H16:164学級 → H26:284学級)

- ・軽度知的障害学級数は64学級(H16)から108学級(H26)に増加
- ・軽度情緒障害学級数は46学級(H16)から81学級(H26)に増加

- 特別支援学校の生徒数は増加傾向 (H19:874人 → H26:981人)

<特別支援学校14校の児童生徒数>

	児童生徒数	
	H19	H26
幼稚部	7	14
小学部	285	294
中等部	191	215
高等部	385	455
専攻科	6	3
計	874	981

障害別	児童生徒数	
	H19	H26
視覚障害	27	26
聴覚障害	34	37
知的障害	591	695
肢体不自由	132	165
病弱	90	58
計	874	981

<発達障害>

- 特別な支援を必要とする子どもの割合 (H25.3)

小学校:5.9%、中学校:4.2%(H20:全国) → 小学校:7.7%、中学校:4.0%(H24:全国)

- ① 本県独自の非常勤講師を配置 (小学校33名、中学校6名)
- ② 特別支援教育支援員の配置 (幼稚園33名、小学校268名、中学校69名)
- ③ 移行支援ガイドラインを作成し全保育所・幼稚園・小・中学校・高校に配布 (H25.3)
 - ・保育所から幼稚園・小・中・高校へと引き継ぐ際の段階ごとの手引き
 - ・県内7地区で全学校の代表者を集め研修会を実施
これまで137名の移行支援を実施 (小学校:83名、中学校:42名、高校:7名、就労5名)

<就労支援>

- 学校ジョブコーチ3名によるサポート企業実習 (平成26年度～)

- ・自動販売機の製造、簡単な縫製やラベル貼りなどの実習現場に同行
- ・本人に合った作業を選定したり、コミュニケーションの取り方、作業の進め方などを助言

平成26年度	生徒数	平均実習期間	実習企業
高校	9名	4.6日	9事業所
特別支援学校	19名	7.8日	16事業所

- 特別支援学校高等部卒業生の状況 (平成26年3月)

高等部卒業生の進路	人数	備考
一般就労	47名	作業労務等10名、A型事業所22名
進学	4名	大学2名、訓練校1名
その他	108名	施設通所・入所102名

定時制・通信制高校

<定時制高校>

- 平成22年度に定時制・通信課程をすべて単位制・2学期制に移行
各高校で3年間で修業可能な教育課程を導入
- 定時制高校は7校（H26定員480名（昼間部4校280名、夜間部5校200名））
- 昼間部の充足率（H22：71.1% → H26：61.1%）
夜間部の充足率（H22：48.5% → H26：35.5%）

<通信制高校>

- 1校に通信制課程を設置
・36講座が設定され1,409名が受講

高校再編

- 県立高等学校再編整備計画を決定（平成21年3月）
 - ・大野東高校の工業科・福祉科と勝山南高校の商業科・家庭科を再編して奥越明成高校開校（平成23年4月）
 - ・若狭東高校の農業科、工業科、若狭高校の商業科を再編
若狭高校に文理探究科設置（平成24年4月）
小浜水産高校を再編して若狭高校に海洋科学科設置（平成25年4月）
 - ・春江工業高校、坂井農業高校、金津高校の商業科、三国高校の家政科を再編して坂井高校開校（平成26年4月）
- 現在、福井県内には28の県立高校（普通科：16、職業科：11、総合学科：1）
平成26年度全日制定員は5,520名（普通科系：3,607名、職業系：1,773名、総合学科140名）
- 福井県の普通科：職業科の割合 7：3（H26：福井県32.1%、全国18.8%）
- 福井県内の高校1年生は10年間で11.7%減少（H16：9,293人 → H26：8,213人）
さらに10年後、高校1年生8,213人（H26）が約7,000人（H36）に減少見込

教員の指導力向上

<採用等>

- 平成27年度教員採用試験 999名受験、190名を採用（志願倍率：5.3倍）
- 近年は毎年約200名が退職。平成29年度以降10年程度は250名～300名/年が定年退職年度に到達

<教員の派遣、受け入れ>

- 県外学校や行政に教員を研修派遣（H24～）
 - ・ 県外の中高一貫教育校（静岡県立浜松西高校）などに教員を派遣（H24～）
（H24：1名、H25：4名、H26：4名）
 - ・ 東京事務所、大学・私学振興課、観光振興課、障害福祉課、工業技術センター、農業試験場などの行政部門に教員を派遣（H25～）（H25：9名、H26：12名）
- 東京芸術大学に中学校教員を1名派遣（日本画研修）（H26～）
- 県外教員を累計20名受け入れ（H23～）
 - ・ H26：6県8名（茨城県2名、長野県1名、奈良県1名、鳥取県1名、熊本県1名、高知県2名）
（H23：2県3名、H24：2県3名、H25：4県6名）

<研修>

- 福井県教育研究所では毎年約130の集合研修を行い、約3,500名が受講
⇒ 各学校に出向いて課題解決に向けた指導を行う訪問研修が増加（H20：106件→H25：297件）
- 福井県教育研究所機能強化策の提言（H26.2）において「通信型研修の整備」と「集合研修における実践型研修の充実」が提言
- 通信型研修
「タブレットの基礎（iPad編）」「魅力的な授業の作り方」など 約700名参加（H26）
- 実践型集合研修・専門研修
「理科におけるICT活用」「弦楽器指導者養成講座」など 約3,500名参加（H26）
- 教職大学院に107名の教員を派遣（H20～）
 - ・ 勤務校で中核を担うミドルリーダークラスを教職大学院に派遣
- 福井大学教職大学院と連携した新任教頭研修とミドル研修
 - ・ 新任教頭が講義・演習に2日間参加（H23～）
 - ・ 中堅教員が大学教員とクロスセッション等を実施（H24～）

<授業研究等>

- 優れた指導を共有するため「授業名人」171名を任命
（小学校68名、中学校43名、高校48名、特支12名）
 - ・ 「授業名人」の模範的な授業をDVDにまとめて若手教員に授業力向上に活用（約4,000名視聴）
- 教員が自主的に勉強を進めるグループ活動を活発化（H25：917回）
- 学習指導事例をWeb上で共有して、授業改善に活用（H25：4,430件（小中高））

<福井しあわせ元気国体（平成30年）に向けた競技力向上>

- 福井国体に向け平成23年9月に「競技力向上対策本部」を設置

〔活動内容〕

① 強化選手1,151名を指定

- ・成年アスリート指定数：583名、ジュニアアスリート指定数：568名
- ・強化校を指定（重点強化校）
中学 11競技 15部（バドミントン男子 明倫中など）
（ ） 高校 26競技 43部（バドミントン女子 勝山高など）
（強化推進校）
中学 17競技 83部（剣道男子 鯖江中など）
（ ） 高校 26競技 56部（サッカー男子 丸岡、北陸高など）
- ・クラブ、企業チーム（強化指定クラブ数 21クラブ）

② スーパーアドバイザー（49名）を派遣して強化選手を指導（バレーボール 荻野正二氏）

③ 特別強化コーチ（3名）を派遣して指導者がいない競技への支援（カヌー 藤田五月氏）

④ 医・科学面から選手を支える専門トレーナーを派遣（87回）

⑤ U・Iターンによる就職支援システム（スポジョブふくい）

- ・企業訪問（185社）、大学へのシステム説明会（11回 日本体育大学、大阪体育大学）

⑥ 強化備品・競技用具の整備（15競技に整備）

- 国体成績が向上（平成22年（千葉国体）34位 → 平成26年（長崎国体）17位）

<1県民1スポーツ>

- 小・中学生の全国体力・運動能力調査結果は全国上位

小学5年男子、女子：1位 中学2年男子、女子：1位（平成26年度）

- 子どもの運動実施率（週3日以上運動）

H25：小学生50.5%（全国平均 46.4%） 中学生74.1%（全国平均 71.9%）

- 中学校から高校への運動部活動の継続（H26：中学校70.0% 高校41.1%）

〔活動内容〕

① 県独自の「体力テスト」や全小中高校における「体力アップ元気プラン」の実施

② 伝承遊びやニュースポーツなどの多様な運動を経験（50校／年）

③ 始業前や休み時間、放課後に全小学校で「アクティブ1運動」実施

（Ex. マラソン、なわとび（冬季）、竹馬、鉄棒、グーパー体操）

④ 小学校低学年の体育の授業に指導者を派遣

⑤ 運動部活動指導者研修会の開催（300名参加）

⑥ 地域のスポーツ指導者を外部指導者として部活動に派遣し、部顧問と連携して部員を指導

（中学校 33校75人、高校 18校40人 派遣回数 年30回／部）

- 県民スポーツ祭を夏季・冬季に開催。冬季に体験イベント（スケート体験、親子スポーツ体験等）を開催（H25：約35,000人参加）

- 成人の運動実施率は36.8%（全国平均：47.5%）

<学校給食>

- 公立小学校給食は59.0%、中学校給食は30.7%の学校が単独調理方式
- 石塚左玄が唱えた「一物全体食」の考えを基に、魚の頭や野菜の葉などを残さず食べる「丸ごと給食」実施
- 学校給食における和食給食の提供（平成26年6月：2.9回/週）
- 県内すべての中学3年生の給食でカニの食べ方を学習
- 栄養教諭や料理長が協働して「鯖の塩麹味噌漬け焼き」と「里芋田楽」、「玄米入り根菜のジンジャー味噌汁」など地場産食材を使った給食のメニューを開発
 - ・11月～ 県内5ブロックにて10献立
- 学校給食調理コンテストに28校が参加（H26）
- 地場産給食を286校で提供（H17：162校 → H25：286校）
（使用率 H17：19.9% → H25：35.3%）

<食育>

- 県内の2小学校が、スーパー食育スクールの指定を受け、自然環境・生活環境が異なる地域の食文化を学習（鯖江市河和田小学校、高浜町青郷小学校）
 - ・野菜を使った給食を児童が考案（栄養教諭が補助）
 - ・伝統工芸である漆器の箸づくりや蒔絵体験 など
- 県内全小学校で、家庭科の調理実習時にこんぶ等を使ったダシのとり方を学習
 - ・11月～ 全小学校5年生
- 福井県の子どもは全国に比べ肥満・やせは少ない。
〔肥満・やせの割合（H25）〕
 - 福井県小学5年生男子：10.7%（全国：12.5%）
 - 女子：7.9%（全国：10.4%）
 - 中学2年生男子：7.6%（全国：9.8%）
 - 女子：8.7%（全国：10.7%）

<文化財保存・活用>

- 福井県の国指定重要文化財等は161件、国宝等は12件
- 県指定の文化財等は358件
- 埋蔵文化財センター職員による土器等を使った出前授業（H25：33小学校 約1,300名参加）
- 発掘調査報告会（約70名参加）、発掘現場説明会（約180名参加）、勾玉づくり（約80名）などを実施

<白川文字学>

- 平成16年度～ 小学校の漢字教育に白川文字学を活用
- 平成20年度～ 白川文字学の独自教材を小学校授業で活用
- 平成23年度～ 全小学校の漢字教育に白川文字学を活用（1～4学年 10時間 5,6学年 5時間）
- 平成25年度～ 先進的な漢字教育者を表彰する「白川静漢字教育賞」を創設
他の教員を指導する漢字指導者を66名認定（H25～）
中高での活用等を研究する白川文字学教育研究会が県下全334校に漢字教育素材集（間違いやすい漢字のエピソードなどのヒント集）を配布
国内の日本語・国語・漢字教育の専門家等を交えたネットワーク形成
- 平成26年度～ 台湾での漢字教育シンポジウムに参加（26.10.4～5、台北教育大学）

<文化振興>

- こども歴史文化館 入館者数（H19開館、H20：29,370人 → H25：51,753人）
 - ・ 杉田玄白などの先人62名、越前和紙やめがねづくり、スポーツなどの達人34名について展示紹介
 - ・ 白川静漢字ファンタジア（子どもの手のひらに漢字のへんとづくりが投影。正しく組み合わせ）
- 一流の芸術・文化を直接体験する子どもの数（H25：約74,000名参加）
 - ・ 県内の全小学5年生が県立音楽堂でプロオーケストラ講演等を鑑賞（H25：約7,500名参加）
 - ・ ふくい県民総合文化祭（H25：約5,000名参加） など
- 3小学校・3中学校、4高校で弦楽器活動を推進（H23～）
 - ・ 各学校で年間50回程度の部活動に講師を派遣
- 日本画を活用した美術教育（レプリカ作成等）を8小学校、12中学校、2高校で実施

<社会教育>

○ 福井県内の公民館数209館

- ・ 福井市社北公民館が全国優良公民館表彰最優秀賞を受賞（地域の環境学習）（H25）

○ 福井ライフ・アカデミー入学者数（H21：10,105名 → H25：10,721名）

- ・ 地域活動講座、ふるさとの展望など郷土学習講座などを開催

<読書活動>

○ 「朝読書」全国都道府県実施率 小中高校総実施率90% 全国1位（H26）

○ 県立図書館貸出冊数(人口比) H24、H25 全国1位 年間貸出冊数：802,710冊（H25）

県立図書館入館者数(人口比) H24 全国1位、H25 全国2位 年間入館者数：648,242人（H25）

- ・ よく貸し出されている分野は「こども」27.4%（恐竜、乗り物の本や絵本など）

「文学」20.8%（人気作家のベストセラー小説など）

○ 福井県ふるさと文学館 平成27年2月 開館予定

貴重資料 7,310点（直筆もの1,663件 写真、蔵書等5,647点）

- ・ 津村節子講演会、俵万智「サラダ記念日」などの映像資料

○ 平日1時間以上読書する割合 小学校14.0%（全国47位）、中学校13.3%（全国43位）

- ・ 1カ月に1冊も本を読まない高校生の割合 [不読率] 45.0%（H25）、41.1%（H26）

〔活動内容〕

- ① 高校生「読書のススメ」活動
- ② 元気ふくいっ子読書活動推進フォーラム
- ③ 教師が読書指導力を身に付ける読書セミナーの開催